

令和元年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	偕楽園ホーム		施設番号	K 048
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和元年度)	改善計画 (令和元年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和2年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があつた場合の実施状況 (令和 年 月 日時点)
重要な意思決定を把握している一般職員は多くはないので重要事項の周知の方法を検討されたいについて	重要な意思決定は経営・幹部会議で行われており、決定内容は同日開催の職員会議で報告されている。職員会議に参加できなかった職員についてはフロア会議等の各課会議等を活用し周知している。ただ、職員の自己評価では、多くの一般職員は分からない、または重要事項の内容と決定経緯を知らないと答えている。重要事項を把握しているのは一部の一般職員に留まる。流れとしては重要事項の周知がなされているにも関わらずそうでない状況が見られるので状況を把握し対応されることが望まれる。	第二偕楽園ホームが開設し、事業所の拠点が3か所になり、増々情報の共有が難しくなった。職員数も常勤、非常勤あわせて約160名となったことから、紙ベースでの情報共有に加え、ICTを積極活用しての情報の共有化が必要なフェーズに入ったと言える。	① 実施済み  2 実施予定(令和 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。  このことから、令和元年9月に主任以上の職員についてグループウェアの導入を図った。	① 実施済み ( 令和元 年 9 月)  具体的には以下のとおりです。  左欄の実施状況のとおりに
当事業所が目指す看取りのプロフェッショナル集団化に向けて、さらなる看取り介護サービスの体制強化が望まれるについて	当事業所は看取りのプロフェッショナル集団を目指している。平成29年度の看取り介護サービスの利用は、退所数22名中9名から20名中16名と前年を上回る数値を残した。介護度4～5の利用者数は60名と多くを占める。このように看取り介護や医療連携の実務について、事業所は利用者の高齢化、重度化がますます進み、医療との連携が求められる中、医療を必要とする利用者の受け入れを積極的に行うとしている。トップが医師であるという強みを生かしPDCAに基づいて看取り介護サービスのさらなる体制強化を図ることが望まれる。	医療・介護サービスの提供者が連携し、利用者にとって最適なサービスを一体的に提供することとして、透析や吸引、在宅酸素など医療依存度の高い方の受け入れを行う。	① 実施済み  2 実施予定(令和 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。  透析については、年度2名の受け入れを行った。	① 実施済み ( 令和元 年 12 月)  具体的には以下のとおりです。  左欄の実施状況のとおりに
生活場面での具体的な個別対応について現場からの気付きを全職員が共有することでより利用者寄りになったケアにつながることを期待したい。について	入浴拒否、介護拒否、暴力、暴言等認知症の方の行動・心理症状などに対して、利用者にもっと身近かに対応している介護者など現場からの気付きや苦労していること等を、他職種、全職員がすくい上げ共有することで、よりその時々利用者生活場面での具体的なケアに繋がることを期待される。	ホスピタリティ向上委員会、認知症ケア向上委員会が中心となり、ケアの質の高さを図ることとする。	① 実施済み  2 実施予定(令和 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。  事業計画にホスピタリティ向上委員会による自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス実現に向け、アセッサーツールをベースとした新人プログラムの拡充や、認知症ケアの理解を深め、習熟度をあげる取り組みを認知症ケア向上委員会で推進した。	① 実施済み ( 令和2 年 3 月)  具体的には以下のとおりです。  左欄の実施状況のとおりに

※この様式は、「令和元年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めていま

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「どうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。